スマホ向け

2027年3月期第2四半期

決算説明資料抜粋

株式会社JSH

（東証グロース：150A）

2026年11月12日

©JSH Co., ltd.

業績予想の上方修正と増配について

©JSH Co., ltd.

業績予想の上方修正と増配について

下記内容で業績の上方修正と配当予想の増加について決定。キャッシュフローは問題なく、エクイティ調達の実施は現時点では考えていない。当社9月末での現預金残高は1,010百万円、自己資本比率は42.2%という水準であり、中計期間の投資CF（25-30億円程度想定）は営業CFと銀行借入で補える想定

1

FY26営業利益
5.2億円（旧予想3.9億円）

2

当期（FY26：2027年3月期）の
配当予想：期末6円00銭
（旧予想3円00銭）

配当性向、累進配当等については現時点では未定

©JSH Co., ltd.

第11期連結業績予想の修正と中期事業計画の修正について

©JSH Co., ltd.

中期事業計画の数値ハイライト

FY26（今期）

・在宅・地方・IoT
　全セグメント成長
・在宅、地方のコスト見直し

売上

64億円

営業利益

5.2億円

FY27（来期）

・地方創生事業売上50億
・IoT黒字化

売上

85億円

営業利益

8.6億円

FY28（再来期）

・IoT利益貢献
・全社営業利益率10%超

売上

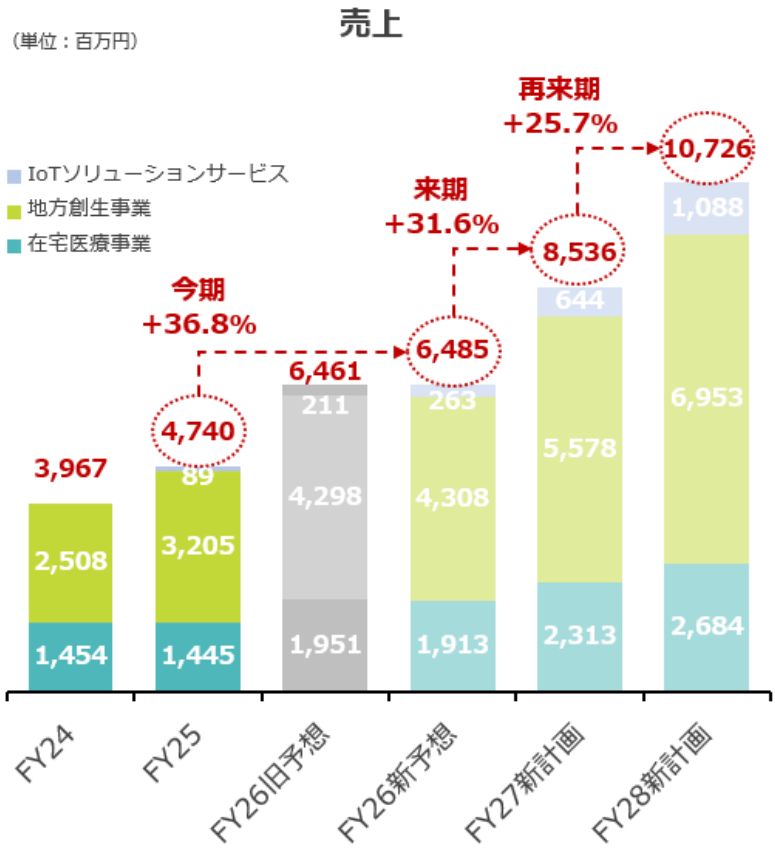
107億円

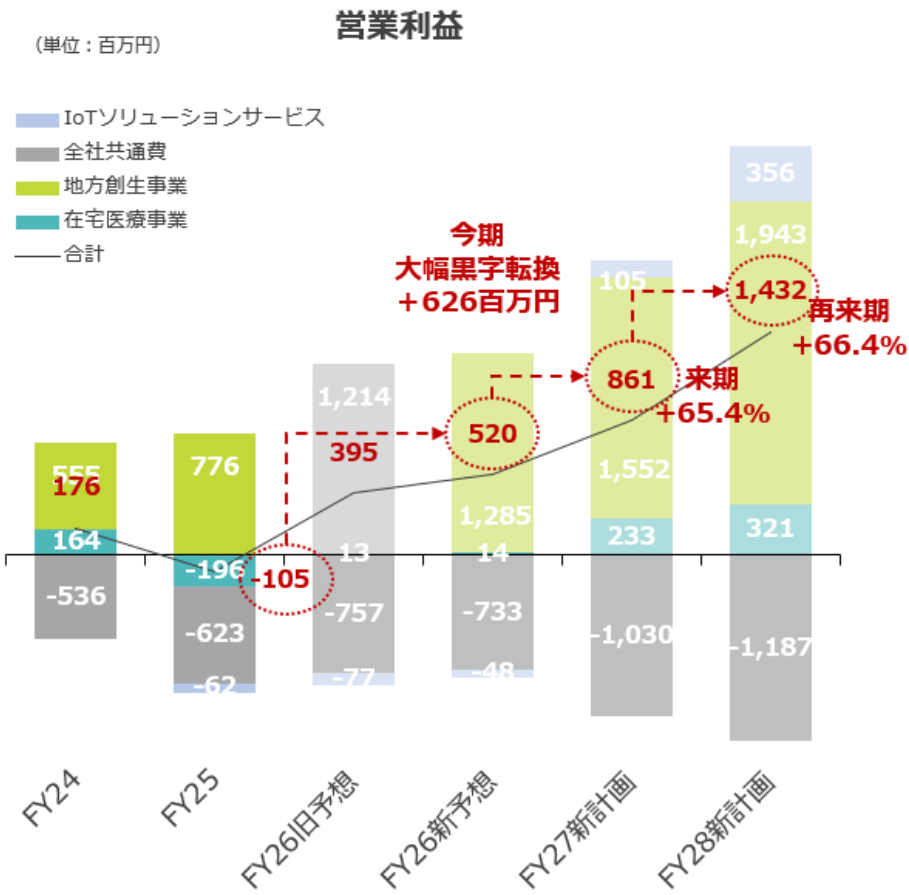
営業利益

14億円超

中期事業計画の数値ハイライト

FY26は営業利益520百万円に上方修正。早期の時価総額100億円の達成に向け、利益拡大に邁進。FY28は売上高107億円、営業利益14億円超に上方修正





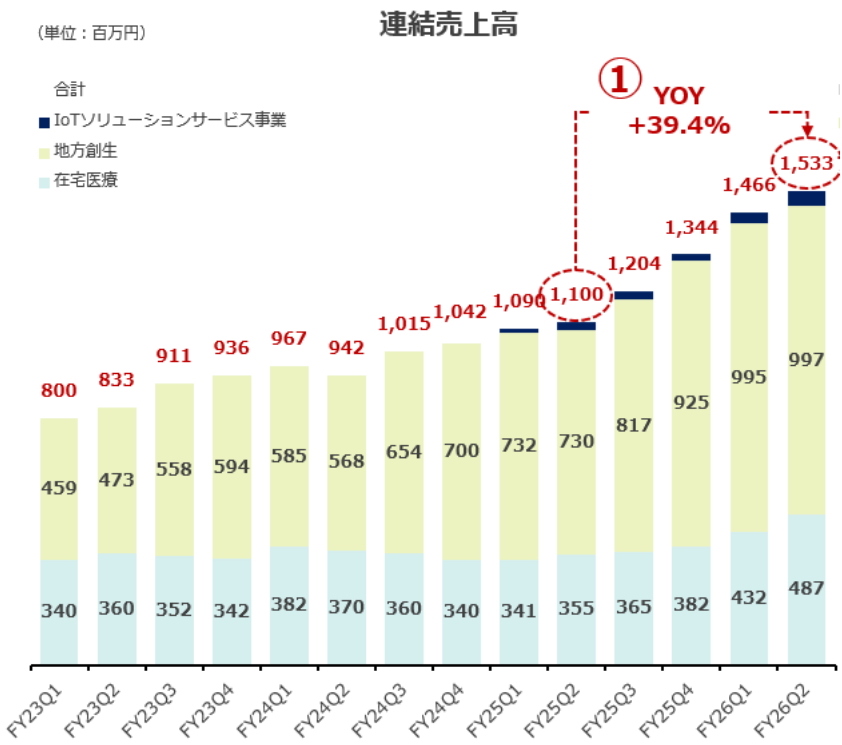
©JSH Co., ltd.

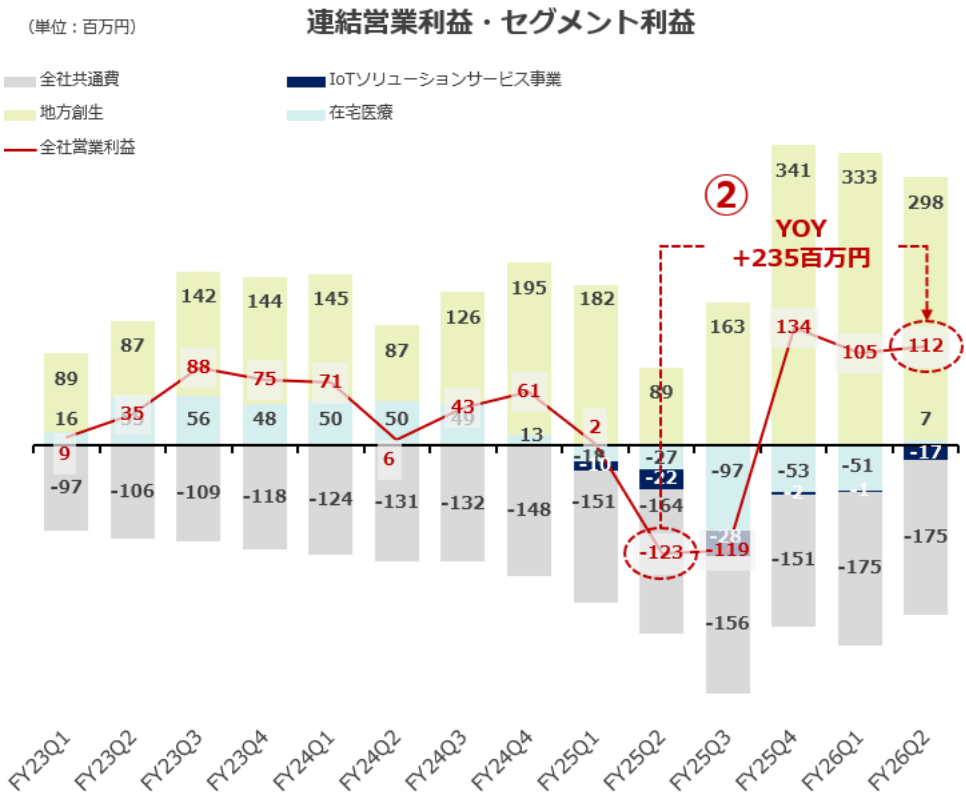
2027年3月期
第2四半期決算数値

©JSH Co., ltd.

四半期PL推移

①売上高は、前年同期比で39.4%増と大幅に成長。②営業利益は、前年同期比では235百万円改善の②112百万円で着地。第二四半期は地方創生事業の障がい者紹介人数が少なくなりやすく利益の谷になりやすい四半期であり、全社の利益水準が引きあがっている



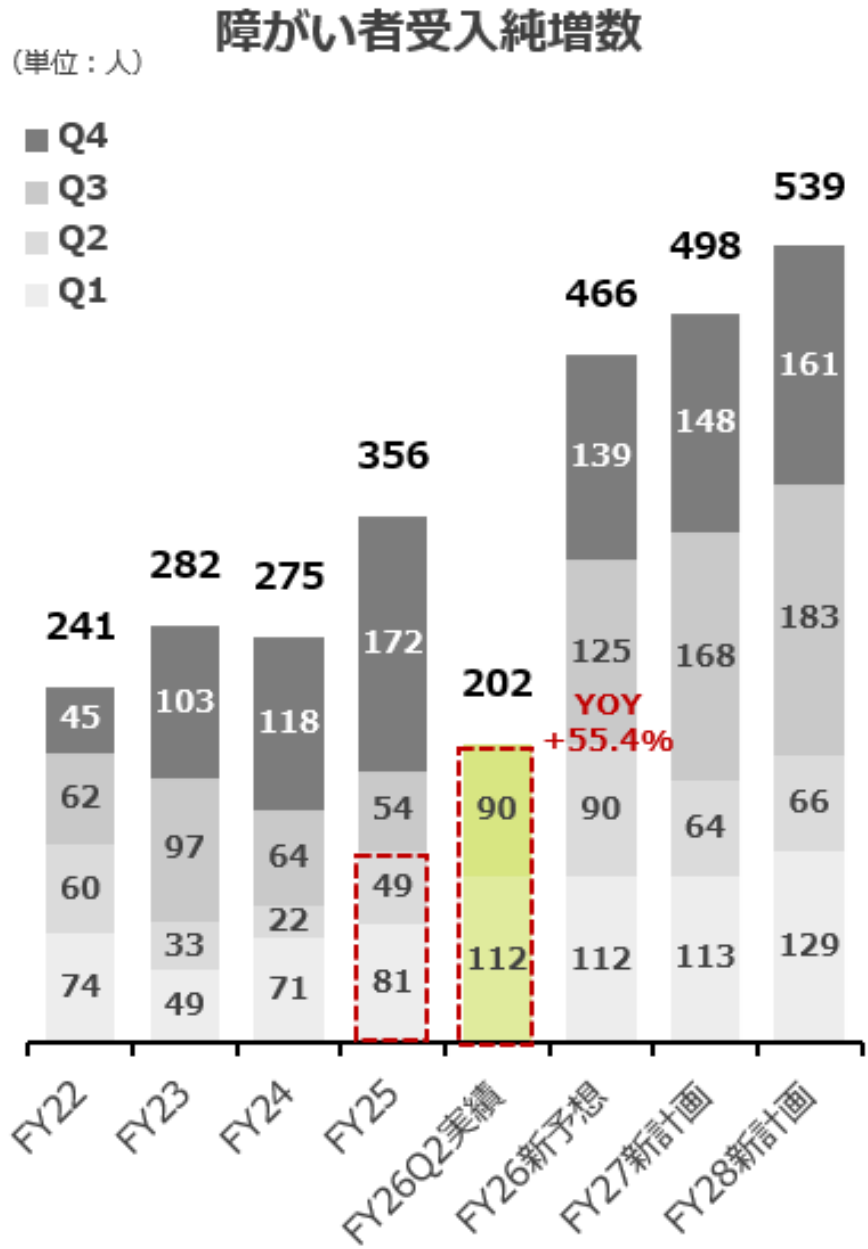


※FY24Q4（2025年3月期第4四半期）以降、連結業績
※内部取引等のため、各セグメントの単純合算値と合計値は一致しない

©JSH Co., ltd.

地方創生事業（コルディアーレ農園）KPI

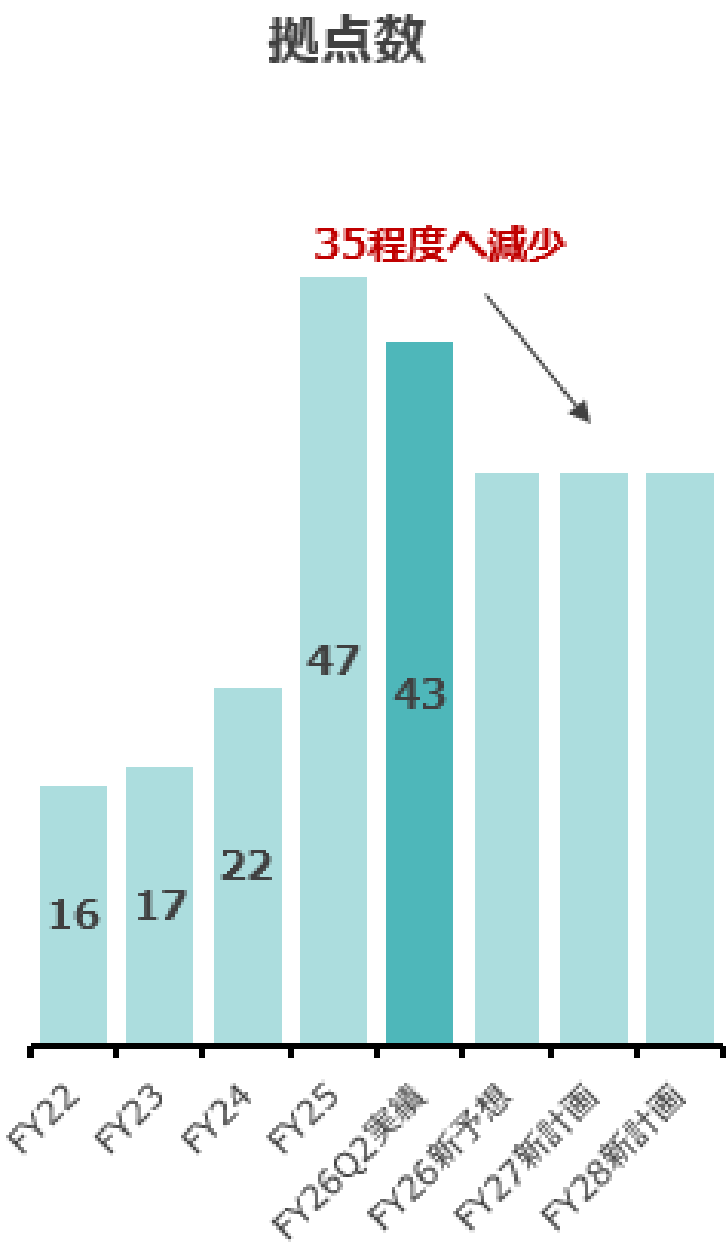
第2四半期の障がい者受入純増数は月次開示済みの90人。好調な受注状況、低解約率の継続を反映し、通期466人に修正。FY27-28は解約率が上がっていく前提でやや保守的に計画。引き続き、需要（企業からの利用開始、障がい者の紹介依頼等）に応じて農園数・総区画数を増やしていく方針



©JSH Co., ltd.

在宅医療事業KPI

地代家賃等の固定費、スタッフ育成方針等を見直し、早期の再度黒字化のための複数拠点の閉鎖・統廃合を実施中。しかし、数年前との比較では拠点数は倍増している状態。第2四半期で利用者数が前期末比328人純増し、1利用者あたり訪問件数は予算数値に到達し、訪問件数は前年同期比30.3%成長と、再び成長軌道に

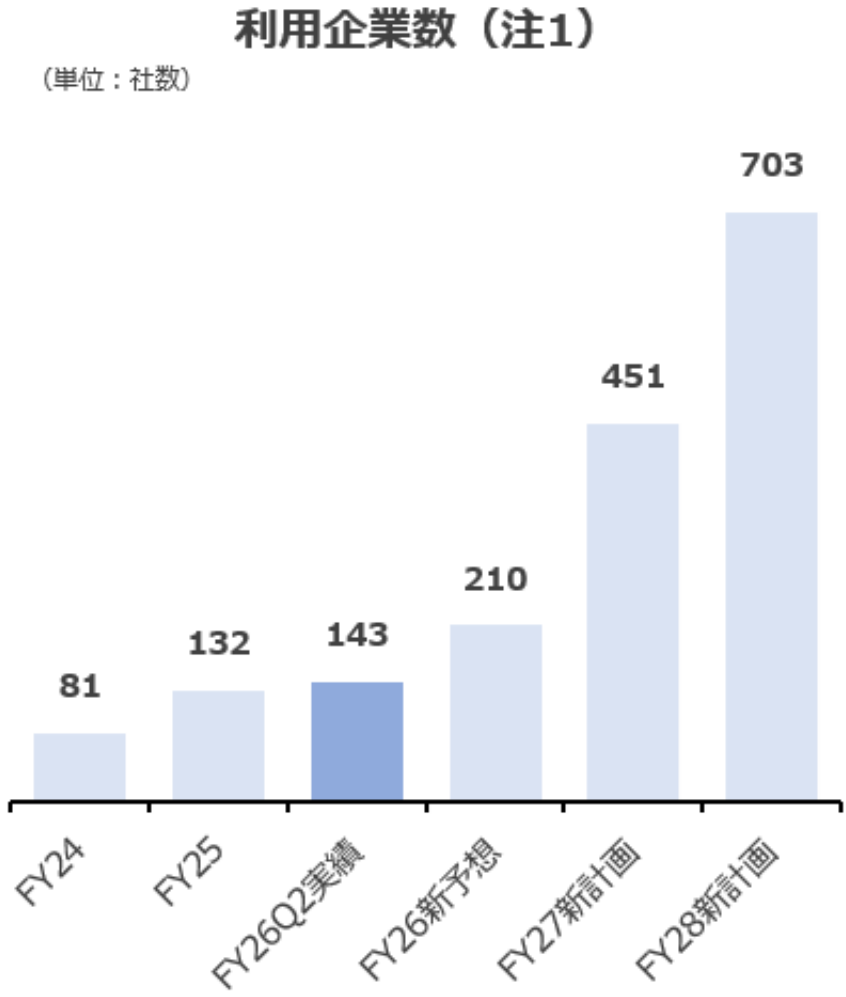


©JSH Co., ltd.

IoTソリューションサービス事業

（連結子会社ショウタイム24株式会社）KPI

スマートロック等のIoTを活用した不動産無人内見システムを主にハウスメーカーに販売。2025年1月に子会社化後、BtoBマーケティング、カスタマーサクセスの強化策が奏功し、リカーリング売上は1年9カ月で3倍に増加。第2四半期累計は利用企業数の伸びは限定的も大手深耕が実を結び、1企業年間単価（第1四半期は年換算で表示）は予算を超過。商談数増加により下期で利用企業数も急拡大する想定



(注1)分譲領域におけるサービス利用中の企業数。賃貸領域は除く。 (注2)期末時点の1利用企業あたりのリカーリング売上（注3）分譲領域におけるシステム利用料。賃貸領域は除く。

©JSH Co., ltd.